

今年度の見どころ



追分茶屋の道しるべ
追分には道標地蔵、自然石、石柱の三つの道標がある。



吉作の東京町と呼ばれた街道筋
旧商家の屋根に祀られた大黒様の飾り瓦。



吉作の街道筋の三界萬霊
石仏が刻まれた慰霊碑。天保二卯年三月〇日、三界萬霊の碑がある。



願海寺の道標地蔵
光背に「右 小杉道 左 とやまか道」の地蔵堂がある。



願海寺の明治天皇御休所跡
明治11年の北陸巡幸の時、中茶屋のあと、この家で小休止された。この界隈には明治勅使の御休所もあり風情が残る。



小杉・手崎の道しるべ
加賀往還道との分岐点にある道標。大きい道標には「右 とやま 左 いわせ」と読める。

ガイドブックの発行

実行委員会では、「旧北陸街道を歩く」歴史探訪の実施記念に富山から小杉までの「富山道」と「巡見上使道」の沿線を紹介したA4版、カラー印刷、100ページ、定価1,200円を発行販売いたします。詳しくは、北日本新聞や次回の広報誌で紹介いたします。

呉羽丘陵を越えて(富山舟橋～峠茶屋～願海寺～小杉・手崎)

旧北陸街道を歩く



「旧北陸街道を歩く」実行委員会

ごあいさつ



呉羽山観光協会「旧北陸街道を歩く」
実行委員長 田畑 宏継

月日の過ぎるのがこんなに早いものとは思いませんでした。昨年11月8日、第1回「旧北陸街道を歩く」歴史探訪を実施してから既に7カ月も過ぎ、今また第2回目の旧北陸街道を歩くためのPR広報誌を配布する時期となりました。

昨年の第1回目は、氷見市や砺波市さらに朝日町からも参加して頂くなど300名あまりの人が富山城社公園から呉羽山まで約6kmの旧北陸街道を2時間半かけて歩きました。途中では、富山船橋や五福の長光寺、峠茶屋の七面堂など8か所の見どころで説明員の解説を聞き、また絵図などの資料を見るなど大変有意義でした。またゴールの富山観光ホテルでは豚汁で体を温め、そして大浴場で疲れを癒して帰って頂くなど大変喜んで頂きました。

今年は、残る呉羽山から小杉の手崎まで約6kmを歩くこととして、今準備を進めているところであります。途中の見どころは、追分茶屋の巡検上使道との分かれ道での三つの道しるべ、吉作の東京町と呼ばれた界隈の道筋、願海寺の七曲りや明治初頭での勅使や明治天皇が休憩された家々、そして小杉手崎で加賀往還道との分岐点の道しるべなど富山と高岡の往来が盛んであった「富山道」を紹介しようと思っております。

どうか今年も万全の準備を整えお待ちしておりますので、ぜひ多くの方々にご参加をいただきますようお願い申し上げます。

(第2回) 歴史ロマン「旧北陸街道を歩く」

今年度の歩行コース

日時 平成21年10月17日(土)
歩行区間 「スタート」富山観光ホテル
追分茶屋、願海寺を経て
「ゴール」小杉・手崎まで約6Km
(ゴールからスタート地点へバスで移動します)
集合場所 富山観光ホテル駐車場
受付時間 午前9時30分まで スタート10時
解散場所 富山観光ホテル
参加費 大人のみ一人1,000円
申込方法 9月上旬に発表予定
定員 300名を予定



協賛金の
お願い

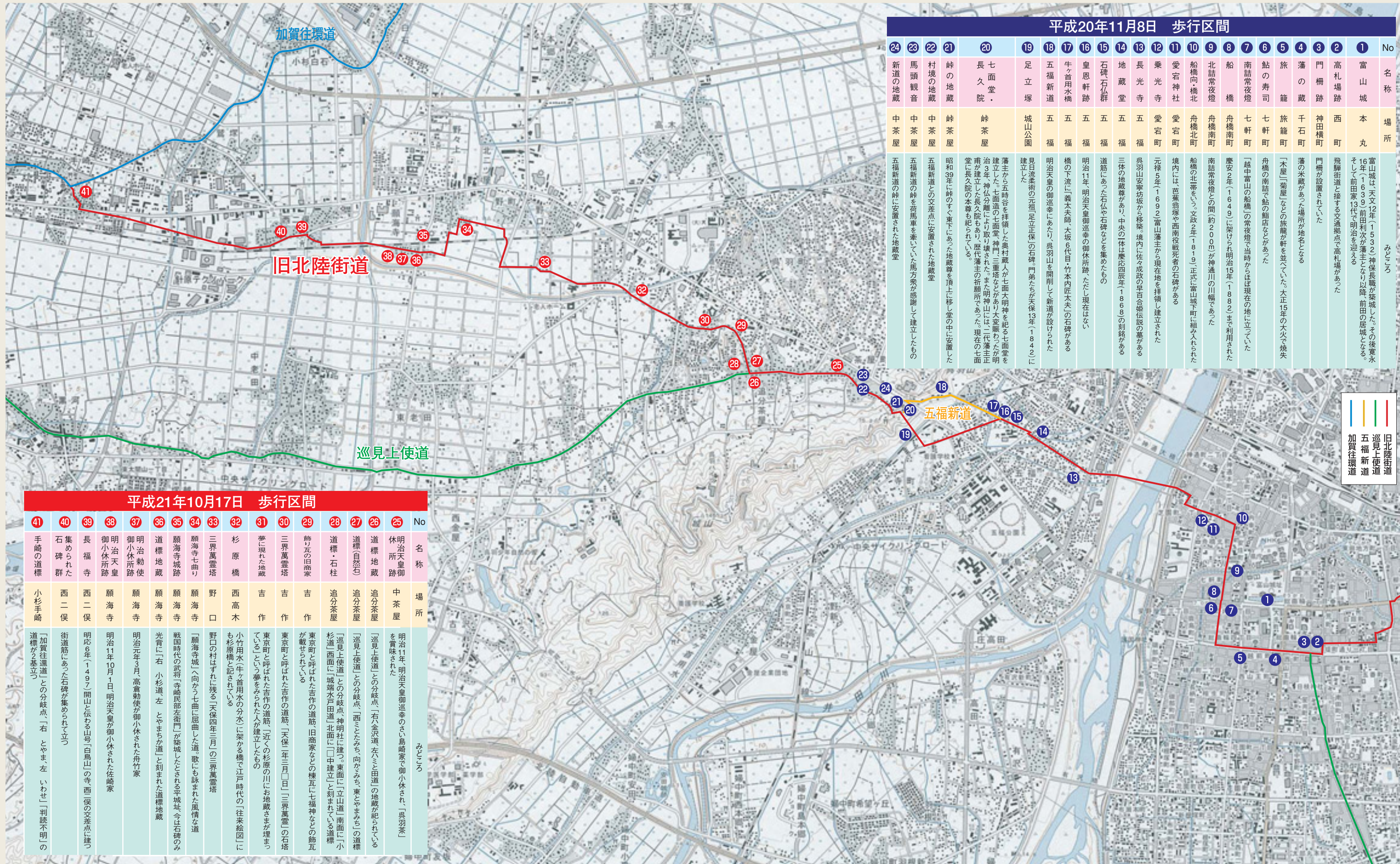
実行委員会では、事業推進するにあたり趣旨にご賛同いただける方から協賛金を賜りたいと思います。なにとぞご協力をお願いします。

1. 協賛金(企業、団体) 1口あたり 10,000円
2. 寄付金(個人) 1口あたり 5,000円

ご協力をいただいた企業、団体の御芳名は、次回発行(9月予定)の広報誌にて掲載し、約2万所帯(五福、桜谷、呉羽地区)に配布します。

問合せ先

富山観光ホテル TEL 076-431-5551
呉羽山観光協会事務局(山口) TEL 076-436-0611



平成20年11月8日 歩行区間

No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24		
名称	富山城	高札場跡	門柵跡	藩の蔵	旅籠	鮎の寿司	南詰常夜燈	船橋	北詰常夜燈	船橋向橋北	愛宕神社	乗光寺	長光寺	地藏堂	石碑・石仏群	皇恩軒跡	牛ヶ首用水橋	五福新道	足立塚	七面堂・長久院	峠の地蔵	村境の地蔵	馬頭観音	新道の地蔵		
場所	本丸	西町	神田横町	千石町	旅籠町	七軒町	七軒町	舟橋南町	舟橋南町	舟橋北町	愛宕町	愛宕町	五福	五福	五福	五福	五福	五福	城山公園	峠茶屋	峠茶屋	中茶屋	中茶屋	中茶屋		
みどころ	富山城は、天文12年(1532)神保長職が築城した。その後寛永16年(1639)前田利次が藩主となり以降、前田の居城となる。そして前田家13代で明治を迎える。	飛騨街道と接する交通拠点で高札場があった。門柵が設置されていた。	藩の米蔵があった場所が地名となる。	「木屋」(粥屋)などの旅籠が軒を並べていた。大正15年の大火で焼失。	舟橋の南詰で鮎の寿司店があった。	「越中富山の船橋」の常夜燈で当時からは現在の地に立っていた。慶安2年(1649)に架けられ明治15年(1882)まで利用された。南詰常夜燈との間(約200m)が神通川の川幅であった。	船橋の北帯をいう。文政2年(1819)正式に富山城下町に組み入れられた。境内には、芭蕉翁塚や西南役戦死者の石碑がある。	元禄5年(1692)富山藩主から現在地を拝領し建立された。	長光寺は、長光寺藩主から現在地を拝領し建立された。	長光寺は、長光寺藩主から現在地を拝領し建立された。	長光寺は、長光寺藩主から現在地を拝領し建立された。	長光寺は、長光寺藩主から現在地を拝領し建立された。	長光寺は、長光寺藩主から現在地を拝領し建立された。	長光寺は、長光寺藩主から現在地を拝領し建立された。	長光寺は、長光寺藩主から現在地を拝領し建立された。	長光寺は、長光寺藩主から現在地を拝領し建立された。	長光寺は、長光寺藩主から現在地を拝領し建立された。	長光寺は、長光寺藩主から現在地を拝領し建立された。	長光寺は、長光寺藩主から現在地を拝領し建立された。	長光寺は、長光寺藩主から現在地を拝領し建立された。	長光寺は、長光寺藩主から現在地を拝領し建立された。	長光寺は、長光寺藩主から現在地を拝領し建立された。	長光寺は、長光寺藩主から現在地を拝領し建立された。	長光寺は、長光寺藩主から現在地を拝領し建立された。	長光寺は、長光寺藩主から現在地を拝領し建立された。	長光寺は、長光寺藩主から現在地を拝領し建立された。

平成21年10月17日 歩行区間

No	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41
名称	明治天皇御休憩所跡	道標地蔵	道標自然色	道標・石柱	飾り瓦の旧商家	三界萬雲塔	夢に現れた地蔵	杉原橋	三界萬雲塔	願海寺七曲り	願海寺城跡	道標地蔵	明治勅使御小休所跡	明治天皇御小休所跡	長福寺	集められた石碑群	手崎の道標
場所	中茶屋	追分茶屋	追分茶屋	追分茶屋	吉	吉	吉	西高木	野口	願海寺	願海寺	願海寺	願海寺	願海寺	西二俣	西二俣	小杉手崎
みどころ	明治11年、明治天皇御巡幸のさい、島崎家で御小休され、「呉羽茶」を賞味された。	「巡見上使道」との分岐点。「西ミとみち、向かみち、東とやまみち」の道標	「巡見上使道」との分岐点。「西ミとみち、向かみち、東とやまみち」の道標	「巡見上使道」との分岐点。神明社に建つ。「立山道」(南面に「小杉道」(西面に「城端水戸田道」(北面に「中建立」と刻まれている道標	東京町と呼ばれた吉作の道筋。旧商家などの棟瓦に七福神などの飾瓦が載せられている。	東京町と呼ばれた吉作の道筋。「天保三年三月」日「三界萬雲」の石塔	東京町と呼ばれた吉作の道筋。「近頃の杉原の川に古地蔵さまが埋まっていた」といふ話をあられた人が建立したものである。	小竹用水牛ヶ首用水の分水に架かる橋で江戸時代の「往来絵図」にも杉原橋と記されている。	野口の村はずれに残る「天保四年三月」の三界萬雲塔	「願海寺城」へ向かう七曲りに屈曲した道。歌にも詠まれた風情な道	戦国時代の武将「寺崎民部左衛門」が築城したとされる平城址。今は石碑のみ	光背に「石、小杉道左」とやまみち道」と刻まれた道標地蔵	明治元年3月、高倉勅使が御小休された舟竹家	明治11年10月1日、明治天皇が御小休された佐崎家	明治6年(1871)開山と伝わる山号「白鳥山」の寺。西「俣」の交差点に建つ	街道筋にあった石碑が集められて立つ	「加賀往環道」との分岐点。「右」とやまみち「いせ」と「判読不明」の道標が2基立つ



入浴後に一服する皆さん ゴール後、豚汁で体を温める 中茶屋の地蔵堂 峠茶屋で説明を聞く参加者 七面大明神を祀る七面堂で 城山公園内の足立塚 愛宕通りにある説明板 越中船橋で説明を聞く参加者 スタート時、城址公園で